

シナイ通信 第3号

平成 15 年 7 月 22 日

シナイモツゴ郷の会

事務局 鹿島台町公民館 (0229-56-2510)



世界で2つ目の池づくり・・・池干しと放流を憩いの森ため池で実施予定

好評だった研修会 郷の会主催の研修会(講演会)が3月15日に開催されました。斎藤憲治氏(東北区水産研究所, 農学博士, 郷の会会員)は『水田の知られざる機能』と題し身近な水田がドジョウ, フナなどの産卵場としてとても大事であることを, 高橋清孝氏(宮城県内水面水産試験場, 水産学博士, 郷の会会員)が『魚を守ってきたため池』と題し貴重な魚がため池により守られてきたが, ため池でブラックバスが繁殖を繰り返すと他の魚は全滅してしまうので侵入を阻止しなければならないと講演しました。研修会には町の内外から約50人が参加し, この様子は新聞でも報道されました。

定例会の開催 4月からは毎月第二土曜日に定例会が公民館で開催されることになり, 10数名の会員が参加して活動内容の企画などについて楽しい議論が続けられています。この中で鹿島台小学校のピオトープづくりを会員が支援することになり, 児童とともに池の清掃や植栽など種々の作業に参加しています。水田を利用したピオトープにはシナイモツゴも放流され, さらに校庭の池にはシナイモツゴの卵を移植し, ふ化した稚魚は大きく成長し元気に泳ぎまわり, 子どもたちを楽しませています。数名の会員が毎日飼育管理しています。

監視活動 桂沢ため池のシナイモツゴは今も健在ですが, こっそりと侵入しシナイモツゴなどを捕獲しようとする人がいるようです。また, バス退治をした生袋ため池には捕獲禁止の看板が設置されましたが, 釣りをした形跡も見られます。日常的な監視が欠かせないと思われますので会員の皆様にご協力いただきながら監視巡回する予定です。

新年度の活動

3月15日(土)研修会・総会・懇親会
3月25日(火)郵便口座開設
3月29日(土)運営委員会, 役員会
3月31日(月)生袋ため池に看板設置

4月10日(木)パトロール腕章作成
4月12日(土)定例会
4月20日(日)青森市又八沼見学・交流
4月28日(月)鹿島台小学校シナイモツゴ池準備
5月10日(土)定例会

世界一のため池 = 桂沢ため池 絶滅危惧種のゼニタナゴは桂沢ため池に生息していますが, 宮城県では桂沢を含め2ヶ所, 全国的にも極めてわずかな場所(10~20箇所)にしか生息していません。桂沢には同じく絶滅が心配されているギバチやメダカも生息し, 4種もの絶滅危惧種が生息する池は全国でも稀であり, シナイモツゴとゼニタナゴが同時に生息する池は世界で鹿島台にしか存在しません。これは豊かな品井沼の一部がため池として長い間守られてきたからであり, 今後も絶やすことなく守っていきたいと考えています。

世界で2つ目の池をつくろう 今年から伊豆沼環境財団が提唱してゼニタナゴ復元プロジェクトが動き出し, 次回の会議には郷の会も出席を予定しています。ゼニタナゴが生息する環境ではシナイモツゴなど由来の小魚が安心して住めるようになることやゼニタナゴの保護を目的とし郷の会も積極的にプロジェクトへ参加, 協力して活動する予定です。また, 鹿島台町のゼニタナゴ生息池を増やそうとする計画も定例会で議論されています。秋の池干後にゼニタナゴを放流しようというもので全国でも初めての試みです。シナイモツゴが生息しブラックバスの侵入が心配されている塚ノ入(憩の森)ため池で8月末に池干し, 11月放流で計画が進んでいます。実現すれば世界で2つ目の池が誕生します。池干しは郷の会最大のイベントですので多くの方が参加されるようお願いいたします。

5月18日(日)桂沢ため池侵入路探索
鹿小ピオトープ用植物採集
5月19日(月)鹿小ピオトープづくり支援
6月1日(日)シナイモツゴ卵鹿島台小へ搬入
飼育管理を継続中
6月13日(金)NHK『おらほの町の自慢』出演
6月14日(土)定例会
7月2日(水)シナイモツゴを南郷中学校へ
7月12日(土)定例会
7月19日(土)運営委員会

平成15年度シナイモツゴ郷の会研修会 in 青森

坂本 啓

4月20日。朝6時からバスに揺られること4時間余り。やっとの思いで目的地青森県の「又八沼」に到着した。バスを降り、青森の大地を踏みしめ、そして青森の空気を胸いっぱい吸い込む。青森は……寒い！！「さすが北海道に近いだけのことはあるな」などとくだらないことを考えつつ、係りの人に案内されながら、又八沼への小道を歩く。

又八沼は青森県で最初にシナイモツゴの生息が確認された場所で、現在は市指定文化財(天然記念物)のシナイモツゴの生息地として管理されているとのこと。又八沼を見て、まず目に入ったのは沼表面に縦横無尽に張られたロープとボンデン(浮き球)だった。ブラックバスの放流や釣り防止の目的で平成12年に設置されたものだそうで、リールを巻く時に針がロープに引っかかるため、ルアーフィッシング等はできない仕組みになっている。景観はちょっと犠牲になってはいても、釣り人に対する効果はバッチリ！まさにシナイモツゴを守るために考えられた秘策と言えるかもしれない。現に数百メートル離れた池では釣り人が沢山いたのに、又八沼には一人も釣り人がいなかった。

その後、場所を青森市森林博物館に移し、青森のシナイモツゴの保護団体と事業報告等を兼ねた交流会が行われた。青森市では現在までに13ヶ所でシナイモツゴの生息が確認されており、又八沼を管理する「シナイモツゴを守る会」と生息地全般において活動を行う「青森シナイモツゴの会」によって保護活動が行われている。「青森シナイモツゴの会」は「青森ティファニー釣りの会」という釣り団体から始まっているそうで、このように釣りを好む人が中心となって保護活動が始まったという点はとても驚きだった。我が郷の会でも、このように釣り人を巻き込んだ保護活動を展開

するののも一つの手ではないだろうか。シナイモツゴを架け橋にした熱い話とはどまることを知らず、様々な意見交換がなされた。結局時間をかなり延長してしまったが、とても有意義な交流会になった。

さて、シナイモツゴに関するイベントはここで終了。ここから研修会のバスは観光バスへと早変わり。せっかく青森まで来てこのまま帰るのはもったいない。青森を堪能せねば！！ということでまず、交流会の会場となった「青森市森林博物館」の見学。ここでは、青森の県木であるヒバや昔ながらの森との関わりを題材にした展示室のほか、高倉健主演の映画「八甲田山」のロケにも使われたという旧営林局長室も見ることができる。思わず局長の椅子に座って記念撮影。次にバスで青森駅前の観光スポット「青森ベイブリッジ」を渡り、青森の顔である三角の建物の「アスパム」でちょっと遅い昼食。個人的には名物(?)のフジツボ(カニの味に似ていて美味！お試しあれ。)が食べられてかなり満足。さらにバスで移動して今度は三内丸山遺跡へ。ガイドさんの説明を聞きつつ大型竪穴住居や大型堀立柱建物を見学し、縄文時代の人々の生活に想いを馳せた。

かなりハードなスケジュールだったが、それでも得るものは多く、充実した一日が過ごせた。青森でのこの貴重な体験を活かして「シナイモツゴ」がつつなく輪をもっと広げ、これからの郷の会がより一層発展するように私も微力ながら頑張りたいと思う。最後に、長時間運転して下さった運転手さん、本当にご苦労様でした。



「池干し」の参加者募集

(シナイモツゴを外来魚等から守るための活動です。)

日 時：平成15年8月30日(土)9:00~

場 所：憩の森ため池(深谷字塚ノ入地内)

参加者：会員及び一般

申込と問合せ：生涯学習課(公民館) 0229-56-2510

シナイモツゴ里親募集

シナイモツゴを増やすため、憩いの森ため池の池干しで採集するシナイモツゴの一部を持ち帰り自宅で飼育・繁殖に挑戦してみませんか。稚魚が増えたら会でひきとり保護に役立てます。希望者はペットボトルなど持ち帰り用の容器を持ってきてください。里親は会員に限らせていただきます。

文化祭出展を計画中

11月2~3日に開催される町の文化祭に出展を予定していません。ご協力ください。

青森シナイモツゴの会からのメッセージ

ナイモツゴ郷の会の皆様へ

青森シナイモツゴの会

会長 宮田 悟

先般は遠路青森市(又八沼)までお出でくださりましてありがとうございます。

基産地 鹿島台のシナイモツゴ郷の会の皆様の保護活動にご期待し貴会と情報を交換しながら本種の保護に努めて行きたいと考えています。

シナイモツゴの発見から青森市指定までの概要

又八沼に生息する本種が青森市指定文化財(天然記念物)になりましたが、その保護決定には、鹿島台町の文化財(天然記念物)指定の経過等を参考にしたと聞いております。私たちの8年間にわたる嘆願が実り、佐々木誠造青森市長の自然保護の熱意による決断で決定になりました。私たちは市長さんに深甚の謝意と敬意を表しております。

天皇陛下も本種の保護や研究に興味をもたれ、陛下の希望で皇居の大池に放流されているということを報道で知りました。

又八沼に、心ない人たちによって、ブラックバスが密放流され、その食害によって本種が悲鳴をあげ助けを求めています。本会ではそれらの窮状に思いをはせ、市民への啓蒙会歌(CD)「シナイモツゴの嘆き節」を会員の手で製作しました。そのCDを宮内庁野生生物研究所に献上したところ、恐れ多くも陛下から「くれぐれも宜しく」、また、市長が市文化財審議会の諮問する旨を発表されましたこと、その喜びをお知らせしたところ「くれぐれも宜しく貴会の発展を希望する」との励ましのお言葉を頂戴しました。

記

平成5年5月 医師 大高 興博士(本会前顧問、釣り仲間)が、又八沼

に釣行のさい本種が偶然釣り上げられました。子供のころから釣り好きだった博士は最初から他の稚魚とは違う、見たこともない魚であり、淡水魚類の専門書を取りよせ調べたところ本種であると確認しました。

しかし、環境庁、水産資源保護協会・水産庁のレッドリスト、多くの専門書に「青森県には生息せず」と記載されていたので、東北大学理学部教授長内健治博士に鑑定を依頼し本種と確認されました。青森ティファニーの会の中に「シナイモツゴを守る会(現青森シナイモツゴの会)62名」の有志によって組織され、青森市および関係機関に保護を嘆願しました。

平成9年、青森市と本会との協議の席で保護方針が決まる。11か所での生息を確認していましたが、乱獲などによる危険分散を図る考えから8か所を公表する。年1回の生息調査、水質検査、週2回の巡回等を実施しております。

平成12年、外来種の侵入による食害が懸念されていたことから、本会、市水産振興課、弘前大学佐原教室で又八沼の水抜による駆除を実施しました。

平成12年、本種が市の文化財(天然記念物)指定に至る。

地元住民によると昔から「沼チカ」と呼ばれて親しまれ、佃煮や味噌煮で食されるなど生活に密接に関係していたことも明らかとなりました。

又八沼の本種は、地域指定団体シナイモツゴを守る会が担当しております。その他の12か所の本種は本会が巡回し水質、環境保全に努めております。

ねがわくば、郷の会の皆様のご指導を頂きながら、当地の本種の保護に邁進したいと思います。

シナイモツゴ嫁入り

去る7月2日、シナイモツゴの里親として南郷中学校へ譲渡しました。

南郷中学校に4月に赴任しました尾形剛志校長先生(以前鹿島台中学校に勤務)は、校舎前庭の池に金魚でも飼いたいと聞き、鹿島台町の天然記念物のシナイモツゴはどうぞすかと呼びかけ、私が仲人役を引き受けて、このたび嫁入りすることになりました。

シナイモツゴ郷の会会員の、鈴木さん、大浦さん、渡辺さん、郷の会佐藤事務局と私の五人が南郷中学校へ、シナイモツゴ三十尾の嫁入りとなりました。学校では校長・教頭・担当の先生と生徒会役員が、昼食後に飼育する池の周りに集まり譲渡式をいたしました。生徒たちは思い思いに、手でシナイモツゴを大事にすくい放しました。シナイモツゴの元気に泳ぐ姿を見て、池いっぱい増えるように祈り、嫁入りを厳やかに挙行。南郷中学校に里親になってもらいました。新会員 榎 勉

会費納入のお願い

郷の会は会員の会費で運営しています。H15年度(H15年4月~H16年3月)の会費(1,000円)は事務局(会計)へ直接届けるか郵便振替でお願いします。

定例会のお知らせ

会員相互の情報交換などの場です。お気軽においでください。
日時：毎月第2土曜日午後6時30分
場所：鹿島台町公民館

シナイはアイヌ語で大きな川(沢)を意味します。小さな流れが大きな川になるように地道な活動を続けていきましょう。